

1 アンケート調査の目的

いじめを受けている児童生徒や、いじめを目にした児童生徒の声を一つでも多く拾い、いじめがどの程度起きているかを定期的に把握するとともに、緊急性のある事案に対し、迅速に対応することにあります。

また、アンケートを実施することで、児童生徒に対して、学校として「いじめをなくそう」としている姿勢を表明する機会となり、少なくとも学期に1回、定期的実施することにより、児童生徒に対して定期的にメッセージを伝える機会となり、また、教職員がいじめ問題への意識を新たに作る機会ともなります。

<県の現状>

- ・いじめの実態把握は、県内全ての小・中学校、高等学校、特別支援学校において、全児童生徒を対象としたいじめの実態把握に関するアンケート調査が実施されています。
- ・年間に2回～3回以上行う学校が大半で、4回以上の割合が小・中学校に多いです。
- ・いじめの実態把握に関するアンケート調査を無記名で実施している小・中学校は少なく、高等学校や特別支援学校に多いです。また、記名するかどうかを選択できるようにしている割合は、高等学校で高いです。

<今後の対策>

- ・記名式アンケートは、具体的ないじめの事実を把握できる可能性があるものの、児童生徒にとって、現在進行しているいじめについては回答しづらく、深刻な事例が見落とされかねないです。一方、無記名アンケートは、いじめられている児童生徒を特定してケアや指導に役立てることが目的ではないが、より正確ないじめの実態把握ができ、いじめがどの程度起きているのかを定期的に捉え、いじめ防止に向けた取組を評価・改善するために効果的です。

このことを踏まえ、各学校においては、状況や目的に応じて、無記名式と記名式を組み合わせたり、記名を選択させたりするとともに、調査時期についても年度当初や長期休業前だけでなく、学校行事等で取り組んでいる時の人間関係を把握するなど、効果的なアンケート調査の実施の在り方を工夫する必要があります。

- ・「いじめは、自分からは言いづらいもの」「いじめは、見ようと思って見ないと見つからないもの」という考えに立ち、無記名アンケートで学校全体の状況や傾向を把握するとともに、記名式アンケートの実施と合わせて個別面談を行ったり、教職員と児童生徒との間で日常やりとりされている「個人ノート」や「生活記録ノート」など日記等の活用をしたりするなど、定期的に児童生徒から直接状況を聞く機会を確実に設けるようにすることが大切です。

2 児童生徒が安心してアンケート調査に向かうために

アンケート調査によって正確な情報を得るためには、児童生徒が安心して記述できるような環境を整えることが必要です。

例えば、「アンケート調査に書いた内容について誰にも否定されない」

「書いたことで、後で仕返しされることがない」

など、児童生徒が教職員を信頼して書くことができるよう、日ごろから信頼関係を構築することが重要です。また、児童生徒が「記入してよかった」「アンケート調査は無駄ではない」という思いをもつためには、アンケート調査の結果がその後の対応に生かされ、解決に向かったという実感がもてる取組を行う必要があります。学校全体で、児童生徒が安心してアンケート調査に向かうことができる取組について話し合い、児童生徒の人権に配慮しながらチームで対応することが大切です。

3 アンケート調査の実施に当たって

児童生徒の声を一つでも多く拾い、学校として、児童生徒に対して「いじめをなくそう」としている姿勢を表明する機会とするために、アンケート調査を実施するに当たっ

ては、次のことに配慮することが重要です。

(1) アンケート調査を行う上での注意事項と雰囲気づくり

アンケート調査実施の際は、児童生徒一人一人の机の間にスペースをとり、「回答中はよそ見をしない」、「私語はしない」、「回答したことは他人に話す必要はない」、「記入が終わっても、回収するまでは表紙や裏表紙を読み静かに待つ」等、児童生徒に対して、アンケート調査を行う上での注意事項を徹底します。

(2) アンケートに向かうための雰囲気作り<表紙の工夫>

アンケートの実施に当たっては、児童生徒がアンケートに向かうための雰囲気をつくり、児童生徒に意識をもたせることが大切です。

本調査は、表紙に趣旨と学校からのメッセージを示しています。担任が読み上げたり、願いを語ったりする等、学校として統一した取組を工夫し、雰囲気づくりに活用してください。

メッセージには、「いじめから児童生徒を守り切る」という強いメッセージを示したり、学校の教育目標や学級目標を盛り込んだりしたりするなど、適宜加筆修正等を行い活用してください。

(3) 回答が見えないようにする配慮<二つ折りの形式>

本調査用紙は、回答が見えないようにA4版を二つ折りにする形式になっています。他には、表紙をつける等の工夫が可能です。また、自宅へ持ち帰り記入し、封筒に入れて担任へ提出する方法も効果的です。

(4) アンケートの回答方法<選択肢の形式を中心に>

文章の記述を求める質問項目は、回答の時間差を生み、児童生徒が「何かを書いている」と周囲に知られることを気にして、正確な情報を得ることができなくなる恐れがあります。そのため、本調査では、具体的質問に選択肢を選ぶなど、短時間で答えられる形を中心とし、「自分がされた」「状況を見た」ことを質問しています。自由記述については、「必ず3行以上書くこと」として、全員同じように時間がかかるよう配慮しています。

なお、自由記述には「いじめを受けている友だちの名前」「気になっていることや困っていること」等、各学校の状況に応じた質問を設定してください。

また、教師が設問を読み上げながら選択肢を選ばせ、質問があればその場で答えながら進めていくと回答に集中させることができます。

(5) 迅速に対応するために<出席番号の記入欄>

本調査では、アンケート調査の最後に、「相談したいことがある人はここに自分の出席番号を書いてください」という欄を設けることで、緊急性のある事案に対しても、迅速に対応できるよう工夫しました。

(6) 子どもたちへのメッセージを伝える機会とするために<表紙等の工夫>

本調査では、裏表紙に子どもたちにもたせたい気持ち等、メッセージを示しました。各学校で適宜加筆修正等を行い、子どもたちに「こういう気持ちをもつようにしよう」というメッセージを、送っていただきたいと考えています。

(7) 相談窓口の提示<表紙等の工夫>

調査の機会を活用して、いじめを受けている児童生徒や、そのことを目にした児童生徒がすぐに相談できる窓口を知らせることも大切です。いじめを受けている児童生徒の中には、「スクールカウンセラーと話してみたいけれど、相談室に行くところを見られたくない」「相談に行ったところを見られるとよけいにいじめられる」という気持ちをもっている児童・生徒もいます。

本調査用紙では、裏表紙に相談窓口を示しました。各学校において、スクールカウンセラーの担当等を示すなど、児童生徒が相談しやすいように適宜加筆修正等を行ってください。

アンケートは回収してしまうので、あわせて、学校内にも児童・生徒の目にふれるところに相談先を掲示する等、児童・生徒に対して相談窓口の周知を図るよう取り組んでください。